京都第一赤十字病院
日本赤十字社
人間を救うのは、人間だ。Our world.Your move.

絆

泉山右老 俊朝

京都第一日赤だより

きずな

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

夏号
2014年7月発行
vol.53

Contents

病診連携懇話会 2,3
院長補佐就任あいさつ 4,5
医療社会事業部長就任あいさつ 6
お知らせ 7

祇園祭で賑う季節となりましたが、4月の診療報酬改訂の影響も少しずつ実感され、今後の医療制度だけでなく、病院のホスピタリティについてもつい考えてしまいます。

病院の使命は、安全で質の高い医療を人々に提供し社会貢献することです。そんな中で、当院のビジョンは、「高度急性期病院のトップランナーになる」ことで、高度急性期医療の充実（がんを含む）、地域における役割分担と連携、医療安全文化の醸成、人材確保と育成などが重要なテーマとなります。組織としての目標と行動計画も大切ですが、原動力となるのは人で、個人の学びと成長が必要不可欠です。

医療人に求められるのは、病める人への共感と利他の精神であり、日々の振り返りによる改善により醸成されていきます。その不断の積み重ねにより、信頼されるホスピタリティが形成されていくものと思います。

医療の専門化と効率化が進み、多職種によるチーム医療が推進され、職種・世代を超えた行動規範の共有が必要になって来ました。学習者は教えられたことよりも、そこで行われていることを身につけていきます。言葉だけでなく実践がとても重要です。

暑さ厳しき季節となりますが、笑顔の挨拶とクールな身だしなみは、心がけたいものです。

京都第一赤十字病院　副院長　池田 栄人

平成26年度 京都第一赤十字病院 病診連携懇話会

今年度も地域の連携医療機関様との更なる連携強化を目的に病診連携懇話会を開催いたしました。

本懇話会は、例年7月第1土曜日に開催していましたが、地域医療連携の強化には多職種連携が不可欠になってきていることから、今年度は関係部署の協力を得て職種別の分科会を企画させていただきました（複数会場確保の関係上、平日開催となりました）。

分科会は、歯科部門、薬剤師部門、看護部門の3つを開催し、それぞれ多くのご参加をいただく事が出来ました。

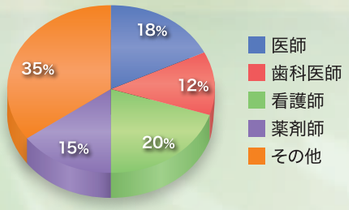
特に歯科と薬剤師の分科会では、京都府歯科医師会様並びに京都府薬剤師会様からも講師を派遣いただくことで、当院にはない視点での意見交換が出来たのではないかと感じています。

当初は初の平日開催となり、あまりご参加いただけないのでは、と危惧していましたが、最終的には381名（院外245名、院内136名）と過去最高のご参加をいただくことができました（昨年比138名増）。

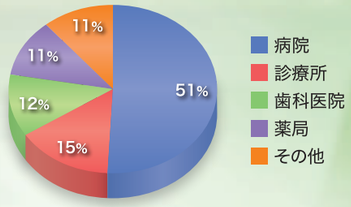
しかし、その分会場が手狭になり、ご参加いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけすることになり、誠に申し訳ございませんでした。

次年度に向け、アンケートも参考にさせていただき、より地域医療連携に寄与できる内容に練り直しますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

参加者職種別割合



参加者機関別割合



プログラム内容

第1部　各分野での連携強化を目指して（分科会）

1 医 科　テーマ「当院での取り組みについて」

当院における脊椎外科10年の歩みとこれから ……【第二整形外科部長】大澤　透
胃の腹腔鏡手術について ……【消化器外科医長】窪田　健
当科における総合内科診療の現状と展望 ……【総合内科副部長】尾本　篤志

2 歯 科　テーマ「周術期の口腔ケアにおける地域医療連携」

当院における周術期の口腔管理について（医科）……【第一整形外科医長】栗林　正明
当院における周術期の口腔管理について（歯科）……【歯科口腔外科部長】堀　智範
歯科医師会を中心とした周術期の口腔管理への取り組み ……【京都府歯科医師会常務理事】佐藤　雅之

3 薬剤部　テーマ「地域医療連携の中で薬局の果たす役割を考える」

地域医療における薬局の役割（診療報酬改定を経て）……【一般社団法人京都府薬剤師会】小林　篤史
病院薬剤業務におけるお薬手帳の活用 ……【医薬品情報係長】舩越　真理

4 看護部　テーマ「当院の専門・認定看護師の活動について」

地域と合同の緩和ケア症例検討会の取り組み ……【がん性疼痛看護認定看護師】中満　順子
～7年間のあゆみ～
ESBLを含めた耐性菌対策について ……【感染管理認定看護師】森　麻巳
病院から在宅へ向けてのシームレスケアを目指して ……【皮膚・排泄ケア認定看護師】澤田　由紀子
入院関連機能障害の予防を目指して ……【老人看護専門看護師】大畑　茂子
～スマイルカフェ（院内デイケア）の取り組み～

第2部　当院の新たな体制と目指すべき地域医療連携

新任部長より～各診療科の取り組み～

【糖尿病・内分泌内科部長】田中　亨
【肝臓・膵臓外科部長】谷口　史洋
【麻酔科部長】平田　学
【救急科部長】竹上　徹郎
【循環器内科部長】沢田　尚久
【第二整形外科部長】大澤　透
【形成外科部長】藤村　大樹
【医療社会事業部長】髙階　謙一郎

当院の地域医療連携について

副院長　河野　義雄

がん治療時にみられる口腔合併症とその対応

歯科口腔外科部長　**堀　智範**

周術期口腔機能管理を術前から行うことにより、術後感染の予防や治癒の促進効果により在院日数が減少することが知られている。

がん化学療法、頭頸部放射線療法により、口腔粘膜炎、口腔カンジダ症、歯性感染症やウイルス感染症を発症することが多く、摂食障害の原因となるため早期の対応が必要である。また、これらの合併症の予防あるいは軽減のために、術前より専門的口腔機能管理を行うことが大切である。

頭頸部放射線治療後は、著明な口腔乾燥のため多発性う蝕を生じやすく、顎骨壊死のリスクも永続的であるため、継続的な口腔管理を必要とする。

周術期口腔管理は今後さらに重視される。病院と地域歯科診療所との連携を密にし、チームとして患者のQOLの向上に貢献することが期待される。

病診連携懇話会を終えて

看護副部長　**中島　路子**

7月3日病診連携懇話会が開催され、看護部でも看護部分科会を担当しました。

テーマは「地域連携をすすめる看護の力」とし、専門・認定看護師4名が地域連携に関連した取り組みの一部を紹介しました。

会場の50席があっという間に一杯となるほどの多くの皆様の参加があり、熱心に講演を聞いていただきました。

時間の制約があり十分な質疑応答をすることはできませんでしたが、後の懇親会を利用して感想を伺い、情報交換を行うなど有意義な時間を過ごすことができました。

今年度の診療報酬改定では医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等が重点課題とされ、質の高い在宅医療の推進が求められ、看護の役割も増大しています。懇話会を通して交流した皆様と共に、患者さんが地域の中で安心してその人らしい生活が送れるように地域の絆を強めていきたいと思います。

分科会「薬剤部」を初めて開催して

薬剤部長　**津田　正博**

今回の分科会のテーマを「地域医療連携を進める中で薬局の果たす役割を考える」と題し企画しました。地域医療連携を進める中では病院同士の連携はもちろん、病院（薬剤師）と調剤薬局の情報共有が重要だと考えます。また、今年度の診療報酬改定では在宅医療にも力を入れる方向にあり、地域の医師、看護師、薬剤師の連携は益々必要になってきました。そのようななか、この分科会が開かれた意味は大きいと考えます。しかしながら、薬剤師の場合思うように進められていないのも事実です。分科会自体が初めての試みなので、どのような結果になるか心配でしたが、意見交換会では貴重な御意をいただきました。

「患者のメリットになるために地域薬剤師がいかに関わるのか」、皆様と情報を共有し薬薬連携を進めていきたいと思いますので、今後とも宜しくお願いします。

院長補佐就任のご挨拶

SALUTATION

医療情報管理

福田　亙

Wataru Fukuda

リウマチ内科部長

連携医療機関の皆様方には、日頃からリウマチ・膠原病診療に関してたいへんお世話になっております。今春より、私は院長補佐という新しい職責をいただきました。個人的には「まだまだ若輩‥」と思っておりますが、それなりに年をとり、当院でもだんだん古株になってきて、そろそろ病院運営に貢献せよという院長の御指示と考えております。日本はいま超高齢化社会の到来により、医療システムを含めた社会全体が大きな変革期にさしかかっています。その中で、当院は高度急性期医療機関として、地域の医療システム全体の中核として貢献していくことを目指しています。われわれが、急性期病院としての機能を十分に発揮するためには、医療プロセスを補完しあえる周辺医療機関の皆さんと、幅広く、円滑で密接な連携を行っていくことが不可欠であることは論を待ちません。患者さんの紹介・転院のみならず、研修や患者教育などいろいろな形で新しい連携システムを構築していくことが、必要になると考えております。そのような医療連携、地域医療のリモデリングに少しでも役に立てるよう微力ながら努力するつもりですので、皆さま方の御指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

がん診療

塩飽　保博

Yasuhiro Shioaki

消化器外科部長

本年4月1日付で院長補佐を拝命しました外科改め消化器外科の塩飽保博です。平成2年に当院に赴任して今年で25年目となります。連携先の病院、医院の皆様におきましては、以前より多大なご協力・ご支援をいただき深く感謝しております。赴任以来、食道がんをはじめとする消化器のがんや炎症性腸疾患の外科治療に取り組んでまいりました。長年がん診療に携わってきたということで、今回病院全体のがん診療において、依田院長、吉田副院長の補佐をすべく就任となりました。当院は今後も高度急性期病院として地域の医療を支えていく使命があると考えておりますが、がん拠点病院の条件を満たすためにはいくつものハードルが待ち構えており、医療機関の入院・外来の機能分化や在宅医療の充実など、地域と一体となった医療体制が求められております。このためには今まで以上により多くの病院、医院の先生方やコメディカルの方々との地域医療連携が必要と考えておりますので、これからも何卒よろしくお願い致します。なお当科の業務につきましては、消化器外科と名称変更したことに対応すべく、腹腔鏡手術などより専門性を上げて診療に取り組みたいと考えておりますので、こちらもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

手術室運営
（高機能急性期医療を担う手術室）

山添　勝一

Shoichi Yamazoe

第一整形外科部長

当院は急性期病院のなかでも高診療密度病院群（全国99施設）に分類されています。ほかに地域医療支援病院（府下11施設）、救命救急センター（府下6施設）、総合周産期母子医療センター（府下唯一）、基幹災害拠点病院などに指定されており、その使命は「高機能急性期医療を担うこと」にあります。医療を取り巻く環境が年々厳しさを増し複雑化の一途をたどるなか、その使命を全うするために病院（管理者）はあらゆる手段を駆使して生き残りをかけた戦いに挑み続けています。診療規模の大きい当院の組織図を見るとその診療機能・形態が実に複雑に細分化されており、したがってこれを統括する管理職の職務内容は極めて多岐にわたります。院長および３名の副院長が関わることのできる診療の「コア」である診療部組織運営の負担は大きく、ときに過重になっていることは想像に難くありません。

このたび院長補佐のひとりとしておもに手術（室）運営に関して「安全性」「効率性」の向上に努めることになりました。両立させ難いテーマではありますが、優れたバランス感覚を持って車の両輪のようにうまく機能させなければなりません。限りある医療資源（ヒトとモノ）を駆使し、患者さんには更なる安心・安全を、医療者には効率性以外に決して疲弊することのないようわずかでも快適性を追求してゆきたいと考えています。皆様のご理解とご協力を賜りますようこころよりお願い申し上げます。

職員教育・臨床研修

浦田　洋二

Yoji Urata

病理診断科部長

この度、院長補佐を拝命いたしました。医師としての第一歩を印した京都第一日赤に戻ってから約3年になりますが、このような立場になるとは思ってもいませんでした。依田院長には教育・研修に関して担当してほしいと言われておりますが、大変広い領域を含んでいるので、私に何が出来るのかを就任以来ずっと考え続けております。日赤の内部にずっといると分かりにくいかもしれませんが、他の病院から日赤に赴任すると、第一日赤は能力や資格に関しては非常に人材に恵まれていると感じます。しかし、これも内部にいては分かりにくいことかもしれませんが、そのような人材が充分に生かされているかといえば、必ずしもそのようなことはない。ですから、院長の言葉を勝手に読み替えて「人材を活かす環境を作ること」を目標と考えることにしました。私は、教育の大きな目標の一つとして個人の考えや実行する能力を引き出すことが大切であると思っています。その実現のためには、上下関係ではなく互いの人格を尊重し、お互いの言葉に耳を傾けることが前提になります。でも、実はこれはチーム医療の基本であり、職場環境を良くする基本でもあるのです。そこで、手始めとして6月の幹部研修会ではパワー・ハラスメントの追放をテーマとして話し合いました。なぜならハラスメントの起こる環境は、人の言葉に耳を傾ける環境とは正反対にあると考えたからです。私も4年後には定年です。医師としての晩年に、育てていただいた第一日赤に対して少しでも恩返しができたら良いなと思っています。

医療社会事業部長就任のあいさつ

医療社会事業部長 髙階 謙一郎

本年4月より医療社会事業部長を拝命しました髙階謙一郎です。基幹災害医療センター長・救命救急センター副センター長を兼任しています。医療社会事業部は赤十字救護班編成などの災害医療体制構築やMSW・病診連携等の病院外の業務を主として担当しています。今年度の医療法改正・診療報酬改定に伴い今後7：1病床が大きく削減され地域の医療体制のあり方が大きく変化すると考えられます。その中で当院が高度急性期医療機能を維持するためには、他の医療施設との連携が極めて重要と考えます。救命救急センターとして地域における救急医療や、患者紹介等の前方連携とともに治療により安定あるいは軽快した後のご紹介などの後方連携（病病・病診）強化に努力していきたいと思います。これらの連携強化によりそれぞれの医療機関の負担軽減を図ることができればと考えております。今後ともご支援ご高配を賜りますようお願い申しあげます。

またこの度、地域医療再生基金（平成25年度高度救急医療・災害時救急医療体制整備事業補助金）により京都府基幹災害拠点病院である当院にDMATカーが整備されました。最近京都で多発した多数傷病者事案等の災害が発生した場合、医師を迅速に派遣するとともに情報管理・指揮や他機関連携を担当できるような機能を有しています。医療資機材のほか、災害時の情報収集など指揮支援の対応が可能となるように走行中にも使用可能な衛星電話やBS、さらには消防無線・IP無線・大型モニター等資機材を満載しています。また当院は京都府の災害医療コーディネーター（本部・地域）をはじめ災害医療の中心となるメンバーを多く有しており災害対応の初動において迅速な役割が期待されています。このDMATカーの整備により京都DMATとして大規模災害だけでなく近隣の多数傷病者事案にも早期に対応できる体制づくりを図りたいと考えています。当院の災害活動においてもご理解ご協力をお願い申しあげます。

DMATカーの側面には京都府の公認キャラクターである「まゆまろ」が描かれていますので、見かけた方はお声かけください。

お知らせ Information

消化器センター治療部門

消化器センター長 吉田 憲正

消化器センターでは、年間約23,000件の内視鏡および超音波を用いた検査・治療を行っています。2014年4月1日以降下記治療部門に機能分化し、日帰り・短期滞在を含めた専門的手術に取り組んでいきますので、気軽にご相談ください。

内視鏡治療部門	部門長
上部消化管	戸祭 直也
下部消化管	奥山 祐右
胆膵	佐藤 秀樹
腹部超音波治療部門	木村 浩之

第10回東福寺消化器フォーラム　～消化器センター15周年を迎えて～

開催日時　平成26年9月20日（土）16：00～18：00　　会 場　ホテルグランヴィア京都

講演内容　『公立病院改革と地域包括ケアシステム』明石市立市民病院　理事長　藤本 荘太郎先生　他

AIDS文化フォーラムin京都

開催日　平成26年10月4日（土）・5日（日）　　会 場　同志社大学新町キャンパス尋真館

乳腺フォーラムのお知らせ

開催日時　平成26年10月18日（土）13：00～15：15　　会 場　大会議室（管理棟5階）

京都第一日赤だより
vol.53 夏号
2014年7月発行　発行責任者/河野義雄　印刷所/東洋印刷株式会社
発行所　京都第一赤十字病院　京都市東山区本町十五丁目749番地　TEL.075-561-1121(代)
URL http://www.kyoto1-jrc.org/　E-mail info@kyoto1-jrc.org

巻末コラム――31

連携室だより

暑さが日ごとに増してまいりましたが、いかがお過ごしですか。

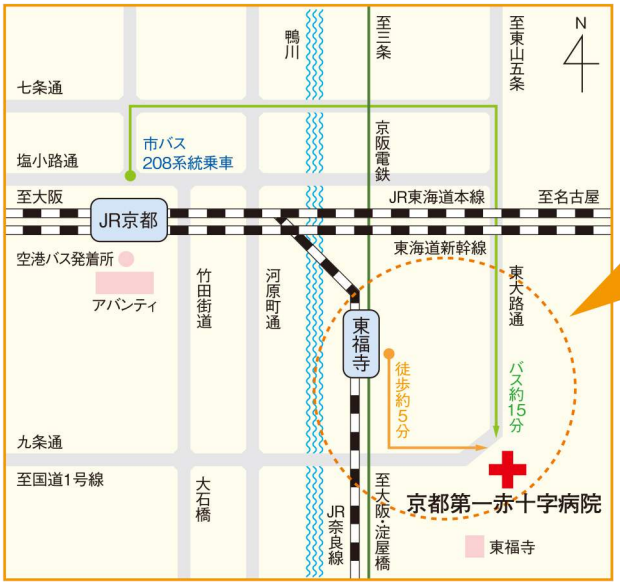
本年4月から地域医療連携課係長として、新しく就任いたしました。平成26年度の診療報酬改定を受け、益々地域医療連携の重要性が高まっており、地域医療支援病院としての役割を全うできるよう尽力してまいりたいと考えております。

平成26年7月3日に開催させていただいた病診連携懇話会には平日開催にもかかわらず、多くの皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。今年度より新しい取り組みとして分科会（医科・歯科・薬剤師・看護師）を実施いたしましたが、今後もより多くの方にご参加いただけるよう皆様のご意見を伺いながら、企画いたしますので、よろしくお願いいたします。

地域医療連携課係長　小池　良典

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】…　京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東（右折）へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】…　国道1号線を西進、東山五条交差点を南（左折）へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】……　竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東（左折）へ九条通りを約500メートル

京都第一赤十字病院
京都市東山区本町15-749　TEL.075-561-1121
地域医療連携室　【直通】TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282